

「おんぶ」と「だっこ」どっちがいい？

2年生が今週、企業訪問・職場見学を実施します。また、この夏休みに、2年生の中には、保育や介護の現場の職場体験をした生徒もいるようです。将来、そういった進路を思い描いている人も少なくないようです。

私たちの生きる社会は、「ゆりかごから墓場まで」と言われます。学校での、保育、保健、介護、医療等の仕事を学ぶ取組や、これから生まれてくる子や幼児などに関する学習や体験など、年齢や立場が違う相手に接したり援助したりすることに関する学習や経験は、皆さんにとって、机上では得られない有意義な成長の機会だと考えています。

数組のお母さんや赤ちゃんに学校に来ていただいて、実際に中学生が赤ちゃんに触れ合ったり、施設等でお年寄りや障がいのある人たちと接するような教育活動などは、コロナ禍の影響もあってか、昨今はなかなか実現が難しくなりましたが、人間本来のやさしさが全面に表出し、たいへん微笑ましく有意義な取組です。

これまでの経験から、このような取組後の生徒の感想文を読むと、生命誕生、命の大切さ、共存社会、生きがい、性に関する知識等々に深い思いを馳せ、真剣に学習に取り組める活動だと受け止めています。

以前、ある保育士さんから興味深い話を聞きました。それは、「この頃の若いお母さんは、子どもを『だっこ』はするけど、『おんぶ』はしなくなった」というのです。なるほど、そう言えば、街中で見かけるのも圧倒的に「前で『だっこ』」が多いような気がします。確かに、ひと昔前は「後ろで『おんぶ』」が当たり前でした。

それでは、『だっこ』と『おんぶ』の違いとは何なのでしょう？ それはお母さん側の利便性だけでなく、赤ちゃんの状態にも大きな違いがでます。一言でいえば、赤ちゃんの「見る景色」です。

『だっこ』は、お母さんが赤ちゃんの顔や様子をずっと見ていられるので、お母さんにとっては至福の時がずっと続きますが、赤ちゃんはお母さんの胸や腕しか見えていない場合が多いのです。(昨今は、赤ちゃんを前向きで『だっこ』している場合も増えているようですが。)

その保育士さんの話では、お母さんと赤ちゃんが同じ方向の同じ物を見て、例えば「ブーブーだよ」などと子どもに語りかけながら言葉を覚えさせることが大事で、「きれいだね。可愛いね」といった感情や感性も、同じ景色を見て共感し合うことで育まれていくというのです。赤ちゃんの視野を広げ、親子で様々なものを見ることによって「あれは何だろう」と興味をもち、赤ちゃんの好奇心はどんどん広がっていくとのことでした。

私は、これまで全校生徒には折に触れて、人間のもつ五感（視角・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）を総動員して本質を見ぬく心と眼を養ってほしいと訴えてきました。

五感の中でも人間が外部から情報収集に使うのは、視覚が8割だということですので、それは大人だけでなく赤ちゃんも同じことで、『おんぶ』で赤ちゃんの視野を確保しておくことはとても大切なのですね。

『だっこ』は密着しているようで、実はお腹の辺りに隙間ができる場合も多くあります。『おんぶ』は『だっこ』よりも密着性が高いために、互いの温もりをしっかりと感じることができます。そして、親は自分からは見えないからこそ敏感となり、余計に背中で赤ちゃんの動きや温もりを感じることができます。一方、赤ちゃんはお母さんの心音を聞くことができ、より安心して落ち着いて過ごすことができるということです。

信頼すべき者同士、愛すべき者同士が、お互いを見つめ合いながら生きるべき

か、常に同じ方向を見ながら生きるべきか、どちらに重きをおくか、人それぞれ、ケースバイケース、共にメリットデメリットがあるでしょう。

子どもたちも様々な場面で、友だちや先生方や家族の皆さんと、いろいろな時間や空間を共有しています。互いがしっかり向き合いながら、お互いじっくり話を聞いたり相談にのったりしながら、お互いを見つめ合いながら、心に寄り添う人間関係を築いていくことが大切なのは言うまでもありません。

一方で、共に同じ方向の景色を見て、同じ空気を吸って、同じ息吹を感じて、同じ感情を共有して、お互いが同じ一つの気持ちになろうと努力することもまた重要だと気づかされます。

要は、お互いが全くバラバラな別な方向を向いてさえいなければいいのです。でも、実際は違います。世の中に、特に大人の中には、こう言いたくなる人も存在します。「どっち向いて仕事しているんですか。」「どっち向いて子どもに接しているんですか。」と。

そして生徒のみんなに。

『バカ』『アホ』『死ね』『クズ』『へたくそ』……。これらは、学校で定期的に実施している『学校生活アンケート』等の中で、周囲から実際に言われて嫌だったとして、繰り返し挙がってくる言葉です。

このような言葉を、一言で『心ない言葉』と言います。私たちは、いつの間にか当たり前のように体は成長し、当たり前のように日本語をしゃべっていますが、生まれてすぐ言葉を発せられるようになったわけではありません。そして、皆さんの親御さんや家族も、そんな醜い言葉を発するために、赤ちゃんの時から皆さんに愛情を注いでかわいがって、手塩にかけて大事に育ててきたのではないはず

この世に生きとし生ける者同士、縁あって同じ学校で過ごす者同士、お互いを見つめ合い、みんなで同じ景色を見ながら、互いの喜びも、悲しみも、うれしさも、つらさも、楽しさも、せつなさも、すべての喜怒哀楽を共有し、これからも、安心・安全な学校をめざしていきましょう。

そう、あのお母さんの背中のような、温もりに満ちた学校をです。